

学年・実施時期

3

年

12

月

教科・科目

現代文B

単元

小説 「こころ」

発問する場面

内容読解終了後

思考を深める問い

先生（私）の罪を量る。

ねらい・効果

Kを死に追いやった先生の罪について、裁判員になったつもりで討論する。量刑を議論する際、その論拠を本文に求める必要があり、登場人物のとした言動の意味やKが死を選んだ理由等々について熟考することになる。

生徒の反応（いずれかに○をつけ、追加で説明が必要があれば記入）

思考がよく深まった（ ○ ） 思考が少し深まった（ ） 深まらなかった（ ）

（追加説明）

意見交換する中で新たな気づきを得たり、根拠を持って論じることの大切さを学んだ。

また、自身の主義信条や、恋や友情について顧みる機会になり、作品をきっかけに自己理解が深まる経験となった。

添付資料等（図や写真、URLなど参考になるものがあれば添付）

●こころ裁判●

①検察が起訴状を読み上げます。

被告人「私」

友人Kを騙して恋の道を通じ、絶望の末に自殺させた疑い。

②被告人の罪状認否（Ⅱ被告人が起訴状の内容について、事実か否かを答弁する）

★「私」はどう答弁するだろうか？次から選択せよ。

1. 「起訴状の内容を全面的に認めます。」
2. 「起訴状の内容を全面的に否定します。」
3. 「起訴状の内容には、部分的に誤りがあります。」

②あなた方は『こころ裁判』の裁判員に選ばれました。

★「私」は有罪か？無罪か？次の論点から判断せよ！

論点a 「私」はKにどうして「精神的に向上心のない者は、ばかだ。」と言いつつ放ったのか？
→もともとは、「私」の言葉。

論点b Kの言った「覚悟」の意味とは？

論点c Kはどの時点で自殺を決意したのか？

論点d Kの遺書にお嬢さんのことが「言も書かれていなかったのはなぜか？

論点e 「私」はKの自殺を予期できなかったのだろうか？

論点f 「私」はどうとう最期までKとの事情をお嬢さんや奥さんに打ち明けることは無かった。なぜだろうか？

関連 有罪・無罪、情状酌量……。